18. 小中学生の放課後の居場所づくり
～学びと遊びの支援・子ども食堂

グループ名　ほんむら子どもプロジェクト
代表者　　豊福美江

① 活動の目的

学年を超えた子ども達が充実した放課後を過ごし、手作りの温かい食事を共にする機会をつくることによって、子ども達の居場所づくりを行う。また、地域のおとなとの交流・コミュニケーションを通じて、斜めの関係も含めた豊かな人間関係を築く。さらに保護者や地域のおとなとしても、活動への参加や野菜の提供等の協力を通じて、子どもへの眼差しを獲得しておとなとしても成長するなど、子どももおとなも生き生きと暮らせる地域づくりにも寄与する。

② 活動概要

子どもが安全にまた安心して過ごせる放課後の居場所が少なくなり、帰宅後もひとりで過ごしたり、夕食が遅くなったりして生活リズムが整わない状況が増えている。そのようななか、東久留米市立本村小学校の前校長先生による「子ども達の育つ力を保証し、地域のおとなとも関わりあえる居場所をつくりたい」という声かけに、地域の様々な立場のおとなが賛同して、2016 年 11 月から毎月 1 回（8 月以外）、火曜日午後 3 時 30 分から 7 時まで、夕食付きの放課後の居場所活動を行っている（助成対象期間の 2017 年 9 月 26 日から 2018 年 7 月 17 日までの 11 回では参加者は延べ 718 名）。

管理職が代わっても、引き続き副校長先生がポスター作成・掲示・申込みの集約、学区内中学への募集連絡等を担当して下さり、6 時からの夕食会には管理職に加えて数名の教職員の参加もある。

申込んだ子ども達は下校せずにそのまま校内に留まり、地域のおとなが宿題や自主的な課題を見守ったり、ボードゲーム・将棋・折り紙等の相手をしたりする。体育館での運動遊びを行う市の児童青少年課による「青少年居場所づくり事業」とも連携し、4 時半からは思い切り身体を動かしたい子どもは体育館へ、引き続き室内遊びをしたい子どもは会場の視聴覚室に、その他静かに過ごしたい子どもは図書室で、とそれぞれ分かれて過ごしたりできるように対応している。

一方、家庭科調理室では夕食の準備を平行して進め、6 時からの「子ども食堂」前には子ども達も配膳等の準備を共に行う。地元の旬の食材も活用した一から手作りのバランス良い夕食は、「給食より外で食べるより、一番美味しい」など好評で、毎回心配するほどのお代わりが続出し、普段食べられない野菜や量にも挑戦する姿が見られる。

参加するおとなとしては、保育園やコミュニティ食堂等の調理師や（元）スタッフ、元教員、民生・児童委員や主任児童委員を務めるもの、社会福祉士、小中学校の保護者、介護施設職員、助産師、近隣自治会の方々、大学生等、様々な立場のものが加わり広がりを見せている。特に小中学校の保護者は、手作りの調理経験を重ねておとなの食育効果や成長が著しく、毎回楽しみにするようにも定着している。

また、現在５ヶ所に増えた「子ども・多世代食堂、子どもカフェ」で「東久留米子ども食堂ネットワーク」を組織して相互協力体制をつくり、地元の農協と提携して朝採り野菜の提供を受けている。

【学びタイム】

【遊びタイム】

【市の居場所事業と連携した体育館での運動遊び】

【遊びタイム】

【家庭科室で 80 食近くを調理】

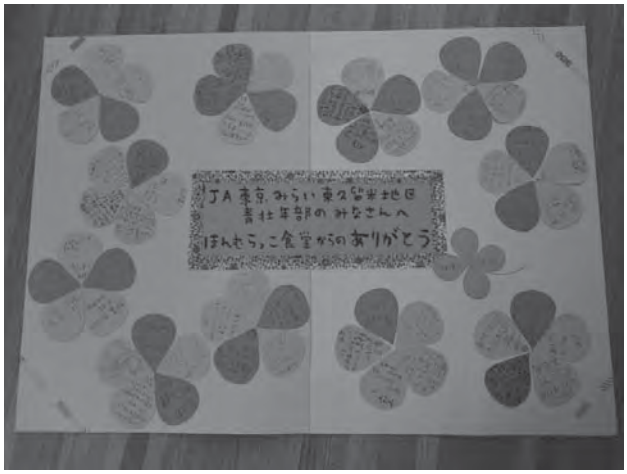
【季節に応じた手作りのメニュー
クリスマス煮込みハンバーグ、ケーキ付き】

【みんなでワイワイ食べる】

【助成金によってエビや魚のメニューも】

【地元の農家から提供される朝採り新鮮野菜】

【JA への感謝の寄せ書き】



【JA で掲示され、取組みを PR することに】

③ 決算報告書

収　入	大同生命厚生事業団助成金	１００，０００円
支　出	食材費	１３３，５７４円
	消耗品	７，６５２円
	事務用品	５４０円
	学習支援用品	８，５３１円
	学生への交通費補助	１，２００円
	保険料	７，５００円
合　計		１５８，９９７円